

新・下野市風土記

栃木県で1位でも全国では？



下野市教育委員会 文化財課

皆さんは、古墳時代の人々の身長がどのくらいだったかご存知ですか？ 分析によると、古墳時代の男性の平均身長は約163cm、女性の平均身長は152cmで、現代人とそれほど変わりません。

遺跡から出土した人骨を分析したことで、弥生時代から古墳時代にかけて、日本列島に住んだ人の平均身長が少しずつ伸びていったことが分かってきました。原因としては、①食料事情が良くなった、②朝鮮半島などから渡来系の人々に移り住んできた、など複数の説が提唱されています。

また、当時の庶民と古墳に埋葬された人を比べると、古墳に埋葬された人の方が身長が高かったようです。これも、①古墳に埋葬される身分の人の方が良いものを食べていた、②古墳に埋葬されたのが朝鮮半島などからの渡来系の人々だった、など複数の説が考えられています。

さて、いくら古墳時代の人々の平均身長が伸びたといっても、現在のところ、身長2m以上の人骨が出土したとは聞いたことがありません。

それなのに何故、当時の人々は、人1人を埋葬するために巨大な古墳を造ったのでしょうか？

世界最大規模の日本の古墳

全国に約16万基以上あると言われる古墳の中でも最大の古墳は、大阪府堺市にある大山古墳（伝仁徳天皇陵）です。

大山古墳の全長は、486m。世界3大墳墓とされているエジプトのクフ王のピラミッドが、基底部の1辺の長さ約230m、高さ146mで、中国の秦の始皇帝の墓が、東西345m、南北350m、高さ43mであるため、大山古墳は世界最大のお墓でもあるといえます。

大山古墳は宮内庁が管理する陵墓であるため、これまでほとんど調査が行われておらず、古墳の構造や埴輪の数など、詳しいことは分かっていません。しかし、昨年10月から11月にかけて行われた調査で、墳丘を囲む堤に多くの円筒埴輪が置かれていたことが確認されました。

古墳の大きさと勢力図（全国）

大きさ2位の古墳は菅田御廟山古墳（伝応神天皇陵）：全長425m、3位は上石津ミサンザイ古墳（伝履中天皇陵）：全長365mで、いずれも大阪府にあります。しかし、大きな古墳が造られたのは大阪だけではありません。第4位には岡山県の造山古墳：全長350m、10位にも作山古墳：全長286mがランクイン。

関東地方最大の古墳は、全国では28位の群馬県太田市の太田天神山古墳：全長210m。栃木県内では、墳丘の規模が120m級の吾妻古墳（栃木市・壬生町）や摩利支天塚古墳、琵琶塚古墳（小山市）が最大級です。

当時、岡山県は吉備と呼ばれ、愛知県周辺や宮崎県周辺、和歌山県周辺などと並び、ヤマトの王権と関係の深い地方豪族がいたと考えられています。また、全国的に、大きさが上位に入る古墳のほとんどは前方後円墳なのですが、現在の古墳研究の最前線では、前方後円墳は、中央であれ地方であれ、ヤマト王権との結びつきが強くなければ造ることができなかったと考えられているのです。

古墳の大きさと勢力図（毛野地域）

古墳時代の毛野地域は、現在の群馬県・栃木県域に、埼玉県の北部地域も含んだ地域で、5世紀の後半頃、上毛野・下毛野の2つに分かれたと考えられています。

上毛野の方が勢力をもっていたようで、上毛野では200m級の大きな古墳が造られましたが、下毛野では120m級の古墳しか造られませんでした。また、その後、古墳時代を通じて上毛野地域では1万3,249基もの古墳が造られたのに対し、下毛野地域では上毛野よりかなり少なく、大きさも限定されたものしか造られなかった（造れなかった）と考えられています。

しかし、古墳時代後半になると、上毛野の西部地域は、榛名山の噴火により甚大な被害を受けました。数年前には、このとき被害にあったと思われる鎧を着た人の骨が発見されました。

6世紀後半以降になると、下毛野の中心地域（宇都宮南部から下野市・壬生町・上三川町・小山市北部周辺）で、80m級の前方後円墳や、円墳としては全国でも上位クラスの大きさの車塚古墳（壬生町）や下石橋愛宕塚古墳（下野市）などが造られました。

これらの古墳を造った豪族の中には、後に下野薬師寺を建立した下毛野氏一族もいたと考えられます。